

## レスベラトール摂取と長寿に関連みられず

レスベラトールはブドウや赤ワイン、チョコレート、一部のベリー類などに含まれるポリフェノールの一種で、ヒトにおける抗酸化作用および抗炎症作用、抗がん作用などが報告され、長寿と関連することも示唆されている。1990年代には、高脂肪食の多い食習慣で知られるフランス人で心臓血管病などの生活習慣病の罹患率が低い原因として、赤ワインの常飲による影響が指摘されていた。しかし、食品から摂取したレスベラトールの生理学的濃度と健康への効果を支持する疫学データは少なく、長寿や心臓血管の健康度に対する赤ワインの効能も不確かであった。そこで本研究では、世界有数のワインの名産地として知られるトスカーナ州キャンティ地方の住民を対象に、食品から摂取したレスベラトールが炎症、がん、心臓血管病、死亡率と関連があるかについて前向きコホート研究で検討した。

キャンティ地方の2つの村の65歳以上の住民783人を対象に、尿中レスベラトール代謝産物濃度を測定した。9年間の追跡期間中に268人(34.3%)が死亡した。試験開始時の尿中総レスベラトール代謝産物濃度の四分位群ごとの死亡率は、最低四分位群から順に34.4%、31.6%、33.5%、37.4%で、有意な群間差はみられなかった( $P=0.67$ )。尿中総レスベラトール代謝産物濃度の最低四分位群における最高四分位群と比べた死亡の危険率は0.80となり、尿中総レスベラトール代謝産物濃度と全死亡との間に有意な関連は認められなかった( $P=0.43$ )。また、レスベラトールレベルと血清CRP、IL-6、IL-1 $\beta$ 、TNF、心臓血管病およびがんの罹患率または発症率との間にも有意な関連はみられなかった。

したがって、イタリアの高齢住民において、尿中総レスベラトール代謝産物濃度は炎症マーカー、心臓血管病、がんとの関連が認められず、長寿の予測因子にもならなかった。この研究からは、西洋式の食事を通じて摂取されるレスベラトールの量では高齢者の健康状態や長寿に実質的な影響を及ぼさないことが示唆された。

出典：Journal of American Medical Association. Internal Medicine.

Published online first May 12, 2014